

尾道市教育委員会 令和元年度完了報告書

1. 調査研究概要

本実践地域は1中学校・3小学校で構成されており、今年度は、これまでの小中連携の経験を生かし、校区として目指す資質・能力の育成に向けてカリキュラム・マネジメントに取り組んだ。「しまっ子志プロジェクト全体構想図」を作成し、中学校区で組織的・計画的に生徒指導や教科指導に係る取組を進めた。また、育成を目指す資質・能力の小中9年間の系統表を作成し、目指す姿を教職員間で共有し、具体的な取組を行うことができるようにした。今後、各校のテーマの成果と課題を検証し、学校教育目標を実現するためや学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためのカリキュラム・マネジメントを充実させていきたい。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察（4校）
6月	広島大学大学院深澤教授による視察（三幸小学校） 第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会
7月	広島大学大学院深澤教授による視察（向島中央小学校） 広島大学大学院深澤教授による視察（向島中学校） 視察（IMETSフォーラム）
8月	第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー）
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会

	第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（兵庫県小野市立河合中学校）
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（鹿児島県鹿児島市立田上小学）
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究業議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校）
3月	まとめ（中間）

2. 調査研究の内容

実践校【向島中学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

研究テーマ

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成を核とした小中9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメント

取組内容

総合的な学習の時間を軸とした9年間の系統的なカリキュラムを作成する。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

【成果】

- ・小中9年間の総合的な学習の時間のカリキュラムを踏まえた系統的な単元の構想を行い、現代的な諸課題を踏まえた総合的な学習の時間の充実を図ることができた。
- ・中学校区内で総合的な学習の時間の内容面のつながり、中学校区で育てたい資質・能力の統一を行うことができた。それらを踏まえ中学校3年間の総合的な学習の時間との関連を意識することで、系統的な単元の構想を模索することができた。
- ・中学校で全2回の「『学びをつなぐ』発表会」の実施し、各学年の総合的な学習の時間の学びを全校生徒への発信することを通して各学年の学びの共有化と中学校3年間の学びの見通しを生徒にも持たせることができた。
- ・中学校におけるキャリア教育と国際教育の2本柱による探究的な単元開発を行うことができた。
- ・キャリア教育では、中学校での3年間で、第1学年では自己理解、第2学年では勤労

観・職業観の育成，第3学年では進路選択を単元の目標として，生徒が主体的に自己のキャリア形成に繋がる単元の開発を行うことができた。

- ・国際教育として，第1学年では異文化理解・自国理解をテーマとしてJICA中国への訪問やALTとの交流，文献等を用いた日本の伝統文化を通して異文化理解と自国文化の理解を行った。第2学年では，東京への修学旅行で外国人留学生との交流を通して異国文化への理解を更に深めた。第3学年では，観光都市としての尾道・向島の良さや国際化する地域の今後の課題について考え，課題を解決する方法について模索することができた。
- ・教科横断的な視点を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラム・マップの作成を行うことができた。
- ・学年毎に，総合的な学習の時間を軸として資質・能力ベースで各教科の学びをつないだカリキュラム・マップを作成することができた。

【課題】

- ・各校で共通的に育成を目指す資質・能力を「表現力」として，系統性を持たせることができたが，生徒の具体的な姿として共有化することに不十分さがある。
- ・本年度は小中4校の総合的な学習の時間の内容や活動の交流を行うことができたが，小学校間での学習内容に差があることや中学校での学習内容との重複する部分については大きな変更・改善を行うことができなかった。
- ・作成したカリキュラムの妥当性等についての検証及び評価の方法について考える必要性がある。

【改善方策】

- ・資質・能力の具体的な姿を各校で共有するとともに，総合的な学習の時間における生徒の姿を具体化し，学年ごとに単元単位での育成を目指す資質・能力を身に付けた生徒の姿を考える。
- ・次年度シラバスの作成に向けて，各校のシラバスの交流を行い，各校の学習内容の系統性を整理し，小学校での学習内容と中学校での学習内容の関連性を強化することで系統性の教科を図る。
- ・次年度のカリキュラム・マネジメント推進委員会で，系統的なカリキュラムの検証や評価の方法について検討する。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察（4校） 学校チャレンジサポート研修（カリキュラム）
6月	第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究会・研究協議 学校チャレンジサポート研修（カリキュラム）
7月	広島大学大学院深澤教授による視察 視察（IMETSフォーラム） 校内授業研究会・研究協議

8月	第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー） 授業公開指導案検討
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（兵庫県小野市立河合中学校） 学校チャレンジサポート研修（カリキュラム）
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究会・研究協議
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究会・研究協議
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究業議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校） 校内授業研究会・研究協議
3月	まとめ（中間）

実践校【高見小学校】

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2） 調査研究の内容

研究テーマ

中学校区で育てたい学習の基盤となる資質・能力の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

取組内容

言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等を高め，学びの主体者を育てるために，各教科等（理科，生活科，総合的な学習の時間）や他の教育活動に横断的な視点を取り入れた指導計画を作成する。

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

【成果】

- ・児童の実態等を全職員で出し合いながら研修したことで，目指す子供像，育成したい

- 資質・能力などについて共通認識を持って取組を考えることができるようになった。
- ・中学校区の教職員とのつながりができ、児童の中学校卒業までの見通しを持って資質・能力の育成の視点で研修を進めることができた。
 - ・4校で共通の課題を整理し、学びや生徒指導のインフラを整備したことで共通の視点で取組を進めることができるようになった。
 - ・総合的な学習の時間を探究的な学びにしていくための研修を通して、他校の良さを学ぶことができた。その上で、単元構想を見直し、年度途中で修正をかけながら学習を進めることができた。（理科・生活科を中心に）
 - ・課題発見・解決学習に向けた単元構想をもとに授業研究を行うことで、児童が主体的に課題を解決していこうとする意識が高まった。（児童の肯定的評価100%）
 - ・授業研究において、資質・能力育成の視点や他教科や日常生活との関連の視点を持って単元を構想していくことで、教科横断的な学習活動を進めることができ児童の学びを深めることができた。
 - ・理科の学習において仮説や考察を考え書かせることを大事にしてきたことで、重点としている資質・能力の表現力が育ってきている。

【課題】

- ・取組において、PDCAサイクルの検証（C）改善（A）が十分ではない。
- ・教職員の意識や取組に個人差や温度差がある。
- ・中学校段階のゴールの具体的な姿（上質イメージ）が見えていない。
- ・授業において評価マトリクスを作成しているが、評価を指導に生かすことが十分にできていない。
- ・授業における児童の活動がねらいとする資質・能力の育成につながっていないことがある。

【改善方策】

- ・研修の実施、研修会等への参加によって教職員のスキルアップを目指す。
- ・校内のミニ研修を増やす。（短時間でPDCAサイクルをまわす）
- ・理科・生活科を中心に、資質・能力（学習の基盤となる）を視점에置いた指導計画を作成し、授業改善を進める。
- ・指導計画をもとに理科・生活科中心に授業研究を行うことで、児童の主体的で対話的な深い学びの実現に向けて取り組む。

（4） 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察（4校） 校内研修
6月	第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内研修・授業研究
7月	視察（IMETSフォーラム） 校内研修・授業研究
8月	第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会

	第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー） 校内研修
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内研修・授業研究
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内研修
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（鹿児島県鹿児島市立田上小学校） 校内研修・授業公開
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内研修・授業研究
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察・授業研究 校内研修
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究業議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校）
3月	校内研修 まとめ（中間）

実践校【向島中央小学校】

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2） 調査研究の内容

研究テーマ

学校教育目標の実現，資質・能力の育成に向けた小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

取組内容

学校教育目標の達成や資質・能力の育成に向けて，各教科等（算数科，道徳科，総合的な学習の時間）の教育内容を教科横断的な視点で再組織し，実践，改善する。

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

【成果】

- ・カリキュラム・マネジメントを進めるにあたり，本校の現状を分析し，児童の実態を再整理することで，育てたい資質・能力を改めてとらえ直すことができた。
- ・学校教育目標が示している子供像を全職員が共有化し，すべての教育活動において学校教育目標の実現に資することが可能であったか否かを評価する動きが見え始めた。
- ・マネジメントサイクルを回すということに係り，本校ではPDCAのうちCheck機能がうまく働いていないために，取組の質が向上しないのではないかという課題を明確にすることができ，Check機能の向上を図る取組み（手立て）を考える研究の方向性が確認できた。

【課題】

- ・教科横断的な視点がまだ十分ではなく，各教科の学び，総合的な学習での学びが学校教育目標の実現，資質・能力の育成につながっていない。
- ・人的，物的リソースの活用が不十分であるため，取組の効果が弱く，評価が難しい。

【改善方策】

- ・早急に新教育課程におけるカリキュラム・マップを作成し，教科横断的な視点で各教科等の見直しを行う。その視点に学校教育目標の実現に向けての視点，資質・能力を育成するという視点を置く。
- ・研究教科として算数科を中心に据え，多面的・批判的にみる力を総合的な学習の時間をはじめ，他の教科等で活用させることを通して，本校の研究主題に迫っていく。
- ・学習集団の基盤，児童個々の学びに向かおうとする力（意欲）を育成していくために，道徳科の授業を基盤に置く。（外部人材の活用も含めて道徳科の授業改善をはかっていく。）
- ・短いスパンで，確実にPDCAのCheckを行い，早く次の一手を繰り出していく。（そのシステムづくり。）

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究（算数科）
6月	校内授業研究（特別支援教育） 第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会
7月	広島大学大学院深澤教授による視察（向島中央小学校） 視察（IMETS フォーラム）
8月	校内授業研究（算数科） 第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー）
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会 （示範授業《総合的な学習の時間》） 校内授業研究（算数科）
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究（外国語活動）

	第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（兵庫県小野市立河合中学校） 公開研究会（算数科）
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（鹿児島県鹿児島市立田上小学校）
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会 授業研究（総合的な学習の時間）
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会 校内授業研究（道徳科） 校内授業研修（算数科・理科） 校内研修（学校教育目標・資質能力について）
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究協議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校） 校内研修（視察還流研修・マネジメントについて）
3月	校内授業研究（算数科） まとめ（中間）

実践校【三幸小学校】

（1） 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

（2） 調査研究の内容

研究テーマ

中学校区で育てたい学習の基盤となる資質・能力の育成を図るための小中9年間の系統性を踏まえたカリキュラム・マネジメント

取組内容

言語能力，情報活用能力，問題発見・解決能力等を高め，学びの主体者を育てるために，各教科等（算数科，総合的な学習の時間）や他の教育活動に横断的な視点を取り入れた指導計画を作成する。

（3） 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

【成果】

- ・学びのインフラの作成（向島スタンダード）により目指す姿や視点が明確になったことで，一人一人が自分の考えを持ち，自分の学びを振り返られるようになってきた。効果的な交流場面（学年間・異学年間）を持つことで，資質・能力を意識した取組が

できた。

- ・ループリックの作成により、学年だけでなく全学年を系統的に見る力が付き、資質・能力を意識した授業改善につながってきつつある。
- ・めざす姿の共通認識ができ児童の育成に協働的に取り組みつつある。
- ・児童の実態把握や重点課題を出し合ったことで、資質・能力における目指す子供像を共通認識することができた。

【課題】

- ・作成したカリキュラム・マップが教科間のつながりを中心としていたため、取り組んでいる言語活動などの資質・能力の育成が明確化されていなかった。
- ・取組の検証・改善策などは職員間で交流できたが、改善策をもとにした取組においては個人差がある。

【改善方策】

- ・年間指導計画にカリキュラム・マネジメントにより資質・能力をどのように育成していくか学年の系統性も考慮し作成していく。又、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力について意識したカリキュラムになるよう重点単元等位置づけ教科横断的な指導となるようカリキュラムを作成する。
- ・ループリック評価を行事だけではなく、教科に対応したものを学年の系統に合わせて作成し、資質・能力の向上を目指していく。
- ・確実にP D C Aの確認を行い、短いスパンでまわしていく。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
5月	第1回カリキュラム・マネジメント推進委員会 広島大学大学院深澤教授による視察（4校） 校内授業研究模擬授業（1・4年） ノート交流会
6月	広島大学大学院深澤教授による視察 第2回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第1回チャレンジサポート講座 校内授業研究（1・4年） ノート交流会
7月	視察（IMETSフォーラム）
8月	第3回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第4回カリキュラム・マネジメント推進委員会 先進地視察（甲南女子大学セミナー） 第2回チャレンジサポート講座 授業公開指導案検討（3・5年）
9月	第5回カリキュラム・マネジメント推進委員会 授業公開指導案検討（特別支援学級） ノート交流会
10月	第6回カリキュラム・マネジメント推進委員会

	第7回カリキュラム・マネジメント推進委員会 ノート交流会
11月	第8回カリキュラム・マネジメント推進委員会 授業公開模擬授業（特別支援学級・3・5年） 授業公開 ノート交流会
12月	第9回カリキュラム・マネジメント推進委員会
1月	第10回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第11回カリキュラム・マネジメント推進委員会 第3回チャレンジサポート講座 ノート交流会
2月	第12回カリキュラム・マネジメント推進委員会 視察（東京都新宿区立西新宿小学校・教育課程研究業議会） 視察（京都府京都市立下京雅小学校）
3月	まとめ（中間）

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 中学校区で、児童の実態を交流する中で共通する課題を見出し、共通した取組（向島スタンダード・しまっ子しぐさ等）を4校で進めることができた。
- 中学校区で育てたい児童生徒の姿を共有したことで、見通しをもち、系統的に児童生徒の主体性や表現力を育成することができた。
- 総合的な学習の時間として各校の独自の取組があり、中学校へ向けてどのような力をつけていくか共通認識を持つ必要がある。
- 小中連携を中心としたカリキュラム・マネジメントは進んだが、学校教育目標を実現するためや学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するためのカリキュラム・マネジメントの取組は不十分であるため、各校のテーマに合わせて教育計画を作成し、取組の検証を行いながら、改善していきたい。また、そのための具体的な取組、評価方法等を明らかにしていきたい。

4. 参考資料

- ・「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」リーフレット
- ・カリキュラム・マネジメント推進委員会実施要項